

菊花きくか
(白居易はくきよい)

一夜新霜著瓦輕 芭蕉新折敗荷傾
耐寒唯有東籬菊 金粟花開曉更清

一夜いちや新霜しんそう瓦かわらに著ついて輕かろし

芭蕉ばしょうは新たにあら折おれて敗荷はいかは傾かたむく

寒かんに耐たうるは唯ただ東籬とうりの菊きくのみ有あつて

金粟きんぞくの花はなは開ひらいて曉あかつき更さらに清きよし

解説 霜が降りた寒気の中に、美しく咲いて
いる菊を詠じた詩。

語釈 ※新霜||初霜。 ※著瓦輕||うつすらと
瓦についている。 ※敗荷||荷は、はず。 枯れ
てやぶれたはすの葉。 ※東籬菊||籬はかきね。
※金粟||金と米。 桂。 菊。 ここでは菊の意。

通釈 夜があけると、初霜がうつすらと降り、
瓦が白くなっていた。この寒さに耐えきれず、
芭蕉は折れて、やぶれたはすの葉も傾いてし
まった。そうした中で寒気に耐えているのは、
東のかきねに咲く菊だけであって、その菊の
花は美しく咲いて、この曉の風景をいつそう
清らかにしている。